

全学モジュール科目案内

テーマ名	14-B12 世界を知り、日本を知る		
テーマ責任者	才津 祐美子	責任部局	多文化社会学部
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
趣旨	<p>グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に「世界を知る」必要に迫られている。そして、このことは必然的に「日本(と日本人)を知る」ことをわれわれに求める。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならないからである。</p> <p>本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、世界といった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、文化、社会、歴史、宗教、芸術、言語、交流などの視点から世界と日本を考察することによって、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にともなって生じている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのテーマに関する基礎的知識を習得する(全科目)。 ・グローバルな視点およびローカルな視点に立って、多様な世界と日本を理解する(全科目)。 ・世界や日本における多文化状況に関心を持ち、その状況が成立した理由(条件)と経緯(歴史)、それを維持する目的や意義を理解する(全科目)。 ・グローバル化の進展に伴って生じている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につける(全科目)。 ・多様な言語的・文化的背景を持つ人々と協働することができる(全科目)。 ・以上を通して、物事を多面的に捉え広い視野から考える能力を身につける(全学モジュール共通目標) 		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くこととなります。「世界を知り、日本を知る」ことは「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことに繋がる知的な営みであり、またそうした多文化状況で生きていく上で必要不可欠な能力でもあります。本モジュールを受講することで是非そのような力を身につけて下さい。</p>		

	科目名	担当者名	概要	キーワード
モジュールⅠ	(I a) 前近代の日本と世界	木村 直樹	明治時代より前の日本を前近代の日本と言う。近年の前近代の日本列島と世界に関わる研究のトピクスをとりあげ、日本を取り巻く世界と大きく相互に影響しているという視点から、日本の国家・社会が形成されていったことを学ぶ。特に、近世(江戸時代)の海外からの技術の受容という話題も盛り込む予定であるので、技術と社会についても考えるきっかけとなしてほしい。	日本史 長崎学 技術と社会 対外交流
	(I b) 近現代のアジアと日本	首藤 明和	明治時代から今日のグローバリゼーションに至るまでのアジアと日本の変遷を学ぶ。特に、今後の共生社会を構想し実践するための理論と方法を、アジアと日本の家族、コミュニティ、市民社会、民族などの具体的な姿を通して考察する。	グローバリゼーション、家族、コミュニティ、市民社会、民族、共生社会
	(I c) 人々の暮らしから見る現代日本	才津 祐美子	われわれはよく「日本(文化)」という表現を用いるが、果たしてそれはどのようなものを指しているのだろうか。本講義では、日本の文化—とりわけ人々の暮らしにまつわる文化を研究してきた民俗学の観点から、日本における文化の類似と相違、あるいは継承と断絶について考察することで、今まで何気なく接してきたであろう身の回りの文化の再認識を目指す。	民俗学 日本地域文化 暮らし

(Ⅱa) 世界の中のヨーロッパ、アジア、アフリカ	葉柳和則 増田研 見原礼子 小松悟	全員で具体的な事例を検討する作業を通して、「ヨーロッパ」、「アジア」、「アフリカ」の〈社会・文化・人間〉を、それぞれの地域に本質的に備わる固定的なアイデンティティ(同一性)としてとらえるのではなく、その環境(Umwelt=取り囲む世界)である域外の〈社会・文化・人間〉とのグローバルな相互作用の中で、絶えずゆらぎ、変化し続けるものとして理解する。	多言語・多文化国家(スイス・ベルギー)、EUのトルコ系住民(オランダ・ドイツ)、グローバル化と地域(EU・アジア・アフリカ)、経済発展と貧困・格差、本質主義
(Ⅱb) 世界と日本の文化交流	野上 建紀	考古学の資料の中でも陶磁器は、最も重要なもののひとつである。世界各地で生産され、それぞれの地域や時代を映す「鏡」となっている。そのため、陶磁器を観察すれば各地域の文化や相互の影響関係も理解することができるのである。陶磁器を通して、その背後にある文化交流を読み解き、日本と世界の関わりを理解できるようにしたい。	陶磁器 文化交流 水中考古学
(Ⅱc) 芸術で見る世界と日本	グラジディアン マリア	人類学の理論と方法を用いて、現代日本芸術の現象にアプローチすることによって、現代日本文化の表象の中に書き込まれた価値観や暗黙のうちに仮定されている前提を明らかにすることが本講義の目的である。日常生活の中で体験する大衆音楽・文学、映画、演劇などの文化的現象を中心的事例として取り上げ、それらと前近代日本文化、現代日本古典文化、または、西欧文化の表現ジャンルとを比較する。	メディア 表象 大衆文化 日本 西欧 比較分析
(Ⅱd) アジアにおける人の移動と日本	賽漢卓娜	「グローバル化」の進展に伴い、多様な文化的・社会的・民族的バックグラウンドを背負った人々が「移民」として地球規模で移動するようになり、今の時代を生きる誰もが、人の移動によって生じる諸問題に直面する。この授業ではアジアという地域に焦点を定めて、人の移動にかかわる諸現象(移動の歴史、移動をもたらす諸要因や、人の移動による文化交流と新たな社会空間の生成など)を講義することで、アジアと日本の多民族・多文化状況や、異なる言語と文化を持つ人々との共生と協働について理解を深めます。	移民 エスニシティ マイノリティとマジョリティ 社会的包摂と排除 多民族・多文化共生
(Ⅱe) 宗教から見た日本	滝澤 克彦	日本の宗教文化は、その風土を反映し実に多様で混合性に富む。この授業では、個別の組織宗教だけではなく民間信仰やスピリチュアリティに至るまで様々な事例をとりあげ、「日本文化」と呼ばれるものの特質に迫る。	宗教文化、風土、組織宗教、民間信仰、スピリチュアリティ
(Ⅱf) 日本のことばと文芸	中島 貴奈	さまざまな時代の文学資料を取り上げ、そこに見られる中国文学・文化の影響を中心とした諸問題を考察することを通して、日本文学・日本文化に対する理解を深める。	日本文学 日中比較 中国文学

全学モジュールの目標キーワード、および授業編成の視点との対応	技能・表現						知識・理解			態度・志向性				※授業編成の視点			
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	A	B	C	D
	自主的探究	批判的思考	自己表現	行動力	日本語コミュニケーション力	英語コミュニケーション力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	社会貢献意欲	学問を尊敬する態度	自己成長志向	相互啓発志向	哲学的な切り口	歴史・略史を扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブラーニングの活用
(I a) 前近代の日本と世界	○	◎	○				◎	○	◎		◎	◎		○	◎	◎	○
(I b) 近現代のアジアと日本	○	◎	○				○		◎	○	◎	◎		○	◎	◎	○
(I c) 人々の暮らしから見る現代日本	○	◎	◎				◎	○	○		◎	◎		○	◎	◎	○
(II a) 世界の中のヨーロッパ、アジア、アフリカ	○	◎			○		○		◎		○		○	○	◎	◎	○
(II b) 世界と日本の文化交流	◎	○					◎	○	◎			○			◎		○
(II c) 芸術で見る世界と日本	○	◎				◎	○		◎		○		○	◎	◎	◎	○
(II d) アジアにおける人の移動と日本	○	◎	○		○		◎	○	◎	○	○	○	◎		○	◎	○
(II e) 宗教から見た日本	◎	◎	○		○		○	◎	◎	○	○	◎	◎	○	○	◎	○
(II f) 日本のことばと文芸	◎	◎	◎	○	◎		◎		◎		○		○	○	○	○	○
◎(特に重視)の数	3	8	2	0	1	1	5	1	8	0	3	4	2	0	6	7	0
○(重視)の数	6	1	4	1	3	0	4	4	1	3	5	2	2	7	3	1	9

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目